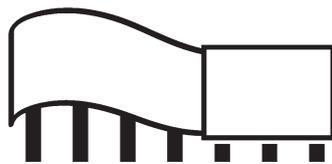


十日町市博物館 年報

— 第11号 —



令和6年度



十日町市博物館
TOKAMACHI CITY MUSEUM

T O P P A K U

刊行にあたって

当館は昭和54年(1979)の開館以来、「妻有地方の自然と文化」をテーマに掲げ、「雪」と「織物」と「信濃川」を柱に、博物館友の会と車の両輪のごとく協力して活動をしてきました。その中で、重要文化財「越後縮の紡織用具及び関連資料 2,098点」(昭和61年指定)、同「十日町の積雪期用具 3,868点」(平成3年指定)、すばらしい造形美を誇る火焰型土器を含む国宝「新潟県笹山遺跡出土深鉢形土器 57点(附871点)」(平成11年指定)を生み出しています。令和6年度に、当館は博物館開館・友の会設立45周年、笹山遺跡出土品・国宝指定25周年を迎えました。本書をご覧ください、ご指導ご鞭撻いただければ幸いです。

十日町市博物館

目 次

I 館の運営	1
1. 来館者の状況	1
2. 博物館協議会	2
3. ミュージアムショップ	2
4. 予 算	3
II 事業の概要	4
1. 教育普及・展示事業	4
2. 資料収集・調査研究・保存対策事業	8
3. 資料の貸出	9
4. その他の事業	9
5. 博物館友の会	11
III 調査・報告	
報告「十日町市中条北原地区における庚申塔建立供養の記録」 菅 沼 亘	12
附編：博物館開館・友の会設立45年の歩み(主要なもの)	14
入館者数の推移(昭和54～令和6年度)	16
利用案内	17

例 言

1. 本書は、十日町市博物館の令和6年度の事業報告である。
2. 本書に掲載されている写真の無断掲載(転載)を禁じる。すべての著作権は十日町市博物館と撮影者・提供者に帰属する。
3. 本書の編集は菅沼 亘(学芸員)が行った。原稿の執筆は職員で分担し、文末に氏名を明示した。
4. 本年度の事業を行うにあたり、関係諸機関および多くの皆様から多大なるご協力をいただいた。お礼申し上げます。

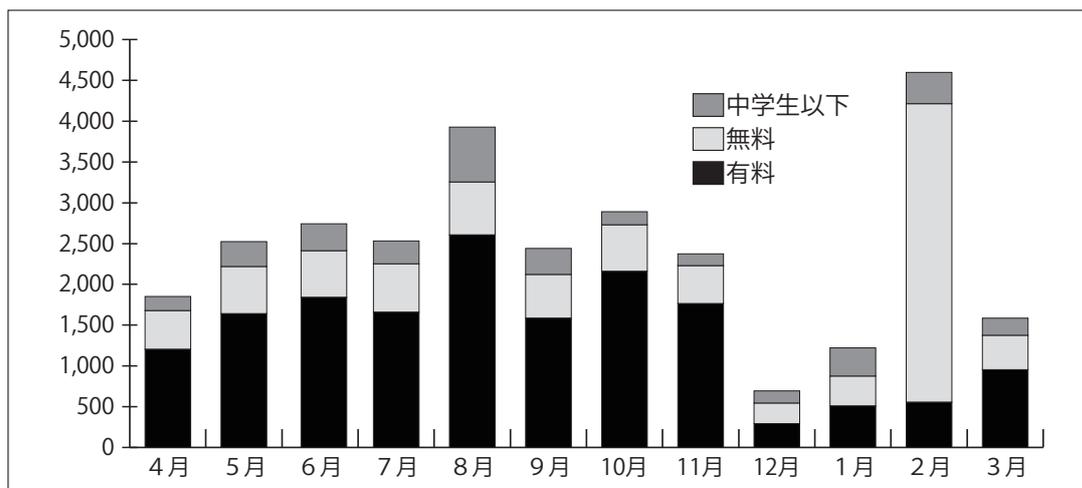
(表紙写真:「織物の歴史」展示室)

I 館の運営

1. 来館者の状況

①月別の推移

区 分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
開館日数	25	27	26	26	28	25	27	26	19	21	22	26	298	
一 般	有 料	1,210	1,650	1,851	1,668	2,622	1,594	2,172	1,774	293	511	557	936	16,838
	無 料	479	583	577	598	654	541	576	470	255	370	3,685	414	9,202
計	1,689	2,233	2,428	2,266	3,276	2,135	2,748	2,244	548	881	4,242	1,350	26,040	
中学生以下	174	307	332	282	677	321	161	145	150	348	386	206	3,489	
合 計	1,863	2,540	2,760	2,548	3,953	2,456	2,909	2,389	698	1,229	4,628	1,556	29,529	



月別来館者数の推移

②学校団体受け入れ状況

小 学 校	
1	下条小学校3年生
2	吉田小学校3・4年生
3	橘小学校3年生
4	十日町小学校3・4年生
5	松代小学校3・6年生
6	東小学校6年生
7	西小学校1・3・4年生
8	千手小学校4年生
9	川治小学校3年生
10	田沢小学校3・6年生
11	飛渡第一小学校6年生
12	中条小学校3・6年生
13	ふれあいの丘支援学校3・4・5年生
14	まつのやま学園3年生
15	南魚沼市立おおまき小学校6年生
16	南魚沼市立浦佐小学校6年生
17	南魚沼市立上田小学校4・6年生

小 学 校	
18	南魚沼市立赤石小学校6年生
19	南魚沼市立北辰小学校3年生
20	上越市立北諏訪小学校4年生
21	長岡市立栃尾東小学校6年生
22	久喜市東鷲宮小学校6年生
23	東京都江戸川区南葛西第二小学校5年生
24	東京都江戸川区立上小岩第二小学校5年生
25	東京都江戸川区立二之江小学校5年生
26	武蔵野市立第一小学校5年生

中 学 校	
1	中条中学校1・3年生
2	南魚沼市立大和中学校2年生
3	港区立青山中学校 2年生
4	昭和村立昭和中学校3年生
5	東京成徳大学深谷中学校2年生
6	和光市立第三中学校2年生

高校・専門学校・大学	
1	県立松代高等学校1年生
2	県立川西高等特別支援学校1年生
3	十日町看護専門学校
4	小千谷西高等学校
5	日本自然環境専門学校

市 内 保 育 園	
1	大井田保育園

子 ども 関 連 団 体	
1	中里公民館寺子屋塾
2	ダッシュ前橋スイミングスクール

小・中学校・高校・大学ほか一覧

(滋野 結希)

2. 博物館協議会

十日町市博物館協議会委員は8名で、2年の任期で委嘱している。協議会会議を年に2回開催し、各回の詳細は以下の通りである。

第1回：令和6年8月23日（金）13：30～15：30 委員7名出席

- ・令和6年度十日町市博物館事業について
- ・夏季企画展見学

第2回：令和7年3月24日（月）13：30～14：30 委員6名出席

- ・令和6年度十日町市博物館事業の実施状況について
- ・令和7年度十日町市博物館事業計画について

氏名	職業・団体等	備考
宇都宮 正人	十日町市博物館友の会 会長	社会教育
滝 沢 梢	十日町市文化協会連合会 運営委員	社会教育
島 田 昌幸	十日町市立西小学校 校長	学校教育
小 林 弘幸	十日町市PTA連合会 会長	家庭教育 (R6.5.17～)
島 田 美智子	(一社)十日町市観光協会 (松之山温泉 凌雲閣 大女将)	学識経験者 (観光分野)
阿 部 美記子	NPO法人 地域おこし	公 募
引 間 佳子	(有)引間建材	公 募
星 名 大 輔	(一社)十日町青年会議所	公 募

博物館協議会委員一覧(任期:令和5年4月1日～令和7年3月31日)

3. ミュージアムショップ

博物館エントランスに設けているミュージアムショップは、令和2年の新館オープンから順調に売上を伸ばし、令和6年度の物品売上収入額が令和2年度と比して220%以上となる見込みである(ただし、令和2年度の営業は10ヵ月)。事業者の協力で新デザインのTシャツやバッグ、ステッカーなどのほか、ハンガーボトル(水筒)などの新アイテムも生まれ、商品の充実が図られている。企画展や季節に応じた品揃えとディスプレイで、博物館の魅力を高め、来館者サービスの向上につながるよう努めたい。

(村山 歩)



ミュージアムショップ風景

4. 予 算

令和6年度の予算は以下のとおりである。

(滋野 結希)

歳入予算

(単位：千円、千円未満切り上げ)

款 項 目	節	説 明	当初予算額	補正額	補正後予算額
14 款 使用料及び手数料	1 項 使用料	7 目 教育使用料			
5. 博物館入館料	5. 博物館入館料		13,786	0	13,786
14 款 使用料及び手数料	1 項 使用料	7 目 教育使用料			
5. 博物館入館料	10. 施設使用者使用料		408	0	408
21 款 諸収入	5 項 雑入	2 目 雑入			
7. 教育雑入	1. 私用電話料		1	0	1
21 款 諸収入	5 項 雑入	2 目 雑入			
7. 教育雑入	2. 私用コピー使用料		1	0	1
21 款 諸収入	5 項 雑入	2 目 雑入			
7. 教育雑入	3. 施設使用者電気料		48	0	48
21 款 諸収入	5 項 雑入	2 目 雑入			
7. 教育雑入	53. 物品使用料		72	0	72
21 款 諸収入	5 項 雑入	2 目 雑入			
7. 教育雑入	67. 博物館物品販売収入		15,435	1,244	16,679
21 款 諸収入	5 項 雑入	2 目 雑入			
7. 教育雑入	70. 古文書講座資料代		30	0	30
21 款 諸収入	5 項 雑入	2 目 雑入			
7. 教育雑入	75. 博物館体験プログラム参加料		90	0	90
22 款 諸収入	5 項 雑入	2 目 雑入			
8. 教育雑入	76. 講演会等受講料		12	0	12
21 款 諸収入	5 項 雑入	2 目 雑入			
7. 教育雑入	98. その他雑入		1	0	1
		計	29,884	1,244	31,128

歳出予算

(単位：千円、千円未満切り上げ)

節	説 明	当初予算額	補正額	補正後予算額
1. 報酬	会計年度任用職員報酬、博物館協議会委員報酬	5,549	0	5,549
3. 職員手当等	会計年度任用職員手当	1,108	0	1,108
7. 報償費	講師謝礼・指導者謝礼	331	0	331
8. 旅費	費用弁償・普通旅費	319	0	319
10. 需要費	消耗品費・燃料費・食糧費・印刷製本費・光熱水費・修繕料	26,247	920	27,167
11. 役務費	通信運搬費・手数料・保険料・広告料	3,442	0	3,442
12. 委託料	館維持管理委託・収蔵資料燻蒸業務委託 ほか	24,392	0	24,392
13. 使用料及び賃借料	テレビ受信料、機器・車両リース、収蔵品管理システム利用料	794	0	794
18. 負担金ほか	日本博物館協会ほか負担金	46	0	46
	計	62,228	920	63,148

事業別歳出予算内訳

(単位：千円、千円未満切り上げ)

事 業 名	当初予算額	補正額	補正後予算額
一般経費	233	0	233
旧博物館施設維持管理経費	986	0	986
博物館施設維持管理経費（除排雪経費、コロナ対策経費含む）	37,624	920	38,544
教育普及・展示事業（特別展示会事業含む）	4,345	0	4,345
資料収集・調査研究・資料保存対策事業	2,215	0	2,215
とおかまちスノーカントリーミュージアム魅力増進事業（文観計画・補助）	16,825	0	16,825
計	62,228	920	63,148

II 事業の概要

1. 教育普及・展示事業

①教育普及事業

博物館講座

本講座は市民を対象としたもので、毎年6月から7月に行われ、昨年度は「魚沼の歴史を学ぶ」、本年度は「北越雪譜を学ぶ」がテーマである。各回の演題と講師は以下のとおりであり、全2回で計73人の受講者があった(受講料200円)。

第1回：7月6日(土)「北越雪譜の怪異」

高橋 郁丸氏(新潟妖怪研究所 所長)

第2回：7月13日(土)「北越雪譜を学ぶ」

貝瀬 香氏(鈴木牧之記念館 学芸員)



第1回博物館講座

古文書入門講座

本講座は古文書読解の初心者を対象としたもので、市内の史料をテキストにして古文書に親しむと共に、郷土の歴史を学ぶことを目的としている。昨年度に続き、講師は林悦郎氏(博物館友の会・古文書研究グループ)にお願いした。今年度は「懐中道中記」(元治元年 小貫村庭野家文書)、「延享元年 御用留」(吉田村庄屋家文書)などをテキストとしている。6月から11月の土曜日(隔週・午前)に行われ、回数は全12回である。今年度の受講生は計9人、延べ参加人数は91人であった。また、受講生よりテキスト代(1,500円)を徴収している。

子ども博物館

本事業は、小学生を対象とした体験教室である。今年度は、8月3日(土)に①「ミニ火焰型土器を作ろう」(参加費500円)、12月22日(日)には②「竪穴住居モンブランを作ろう」(参加費1,500円)を開催した。①は粘土をこねて土器のもととなる形を作り、突起や模様をつけてオリジナルのミニ火焰型土器を作った。作った土器は8月17日(土)に笹山遺跡広場で野焼きを行った。②では、縄文人の家はどのようなものか、学芸員の関連展示ガイドを行い、本物そっくりの竪穴住居をお菓子で作るワークショップを行った。①の定員は20名、②の定員は10名(事前申込)で、参加者は保護者合わせて①が21名、②が14名であった。(笠井 洋祐)



ミニ火焰型土器を作ろう



竪穴住居モンブランを作ろう



②展示事業

笹山遺跡出土品国宝指定 25 周年記念 夏季企画展「すべて見せます!「国宝の土器」」

本展は、博物館友の会と信濃川火焰街道連携協議会との共催で開催された。会期は、前期が6月1日(土)から7月10日(水)、後期が7月13日(土)から8月25日(日)の計84日間、会期中の入館者数は計8,948人である。平成11年6月7日に、火焰型土器を含む笹山遺跡深鉢形土器57点が、縄文土器として初めての国宝に指定され、令和6年度は国宝指定25周年の年である。当館の常設展示室では、国宝の土器を定期的に入れ替えながら展示している。本展では企画展示室と合わせ、前期と後期の2回に分けて国宝の土器62点(深鉢57・浅鉢5点)すべてを一室に展示した。縄文土器の造形美を体感していただき、国宝指定までの軌跡を紹介した。

展示構成は、①「縄文に美を発見した岡本太郎」、②「火焰型土器に国宝の価値を発見した梅原猛」、③「国宝指定までの軌跡とその後の25年」、④「同時開催 [TOPPAKU × キョロロ] 連携展示」である。①では、縄文土器を見て、縄文に美を発見したと言われる岡本太郎の紹介をした。②は火焰型土器に早くから注目し「私が推す新国宝」の中で、火焰型土器を1番に推薦していた哲学者・梅原猛を紹介した。③では、国宝に指定されるまでの軌跡と、指定後の25年を振り返った。④は、同時開催した [TOPPAKU × キョロロ] 連携展示で、「植物が彩る縄文人の食卓」(会場:TOPPAKU)、「文化財になったサメとゾウの化石」(会場:キョロロ)の展示を行った。また、



夏季企画展の展示状況

展示解説リーフレット(A3・二つ折り)を無料頒布した。



夏季企画展チラシ

開館・友の会設立45周年・国宝指定25周年記念

秋季特別展「JAPAN(漆器)のルーツー雪ふる縄文と世界遺産ー」

本展は、信濃川火焰街道連携協議会と博物館友の会との共催で開催された。会期は、9月28日(土)から11月10日(日)の44日間、会期中の入館者数は4,605人(うち特別展の有料観覧者数2,055人)である。

北海道・北東北の縄文遺跡群は、農耕社会以前の人々の生活と精神文化を示す文化遺産として、令和3年7月にユネスコ世界遺産に登録された。縄文時代は土偶に見られるような高い精神性をもち、世界最古の精巧な漆工品が作られていた。本展では、北東北にある世界遺産構成資産の遺跡から出土した重要文化財指定品を含む土器や土製品を中心に展示し、新潟県内や信濃川流域の土器や土製品との競演を通して、縄文の美と心、その魅力に迫った。

展示構成は、①「世界遺産と日本遺産」、②「北東北の世界遺産」、③「雪ふる縄文ー信濃川流域の縄文遺産」である。①では、世界遺産と日本遺産がどのようなものであるかを解説した。②は北海道・



秋季特別展の展示状況

北東北の縄文遺跡群の説明と、展示遺跡の解説を行った。③では、信濃川流域の縄文遺産を解説し資料を展示した。10月12日(土)の午後には、小久保拓也氏(八戸市埋蔵文化財センター是川縄文館学芸員)を招いて、記念講演会「縄文漆工芸ー是川石器時代遺跡ー」が開催され、24人が参集した。また、展示図録を刊行し、ミュージアムショップで販売している。



秋季特別展チラシ

博物館開館・友の会設立45周年記念 冬季企画展「マイコレクション」

本展は、博物館友の会との共催で開催された。会期は、令和7年2月15日（土）から3月23日（日）の37日間、会期中の入館者数は5,345人である。

昭和54年4月の博物館開館と同時に発足した博物館友の会は、設立45周年を迎えた。友の会は博物館の活動に協力し、会員の教養と親睦を深めるとともに、市民文化の向上に寄与することを目的に設立され、総会や年2回の文化財めぐり、友の会だより『火焰』(年3回)の発行、8つの研究グループ活動が現在も活発に行われている。本展では、友の会の45年間の主な活動を紹介します、500名を超える会員の中から選りすぐりのマイコレクションを展示した。

展示構成は、①「博物館と友の会の歩み」、②「研究グループ活動」、③「マイコレクション」、④「45周年から50周年へ」、また同時開催 [TOPPAKU×キョロロ] 連携展示」の展示を行った。①では、博物館開館と友の会設立からの45年の歩みを振り返った。②は、友の会活動



冬季企画展の展示状況

の最大の特徴である研究グループの活動について解説した。③では、友の会会員の錦絵コレクションや大相撲コレクション、鉄道コレクション、切手やカードコレクションを展示し、解説した。④では、50周年に向けて、2つの日本遺産を活用しての展望を解説した。⑤では同時開催した [TOPPAKU×キョロロ] 連携展示で、「学芸員・研究員が紹介したくてしかたがない「スノウリッチ*とおかまち」の展示を行った。また、展示解説リーフレット (A3・二つ折り) を無料頒布した。



冬季企画展チラシ

特設展示「昔の道具」

市民から寄贈された昭和の道具類を集めた。会期は、令和6年12月21日(土)から令和7年2月2日(日)である。道具を使用されていた場面ごとに分けて展示し(日常生活、学校・職場、趣味・娯楽)、現在では失われつつある昭和の暮らしを紹介した。また、会場内では石臼の粉挽き体験やOHPの投写体験、二眼レフカメラを覗く体験などを行った。小学3年生の総合学習(昔の暮らし)での利用に伴い、計206人(8校)が見学した。(笠井 洋祐)



特設展示「昔の道具」の展示状況

③まちの文化歴史コーナー

十日町市市民交流センター1階の「まちの文化歴史コーナー」(愛称:HAKKAKE)において、博物館収蔵資料の展示を行った。今年度は、来訪者に十日町市の通史的な理解を深めていただくために、原始・古代・中世の器や道具の移り変わりがわかる資料や、吉田・川西地域、松代・松之山地域の資料を展示した。「土の中から見つかったよ～原始の器と道具～」赤羽根・城之古遺跡出土品(5/15～7/8)、「土の中から見つかったよ～古代の器と道具～」馬場上・柳木田遺跡出土品(7/10～9/9)、「土の中から見つかったよ～中世の器と道具～」笹山・水沢館跡出土品(9/11～11/11)、「吉田・川西地域の遺跡―樽沢開田遺跡と枳形遺跡―」樽沢開田・枳形遺跡出土品(11/13～2/3)、「松代・松之山地域の遺跡―向原遺跡と橋詰居村遺跡―」向原Ⅱ・橋詰居村遺跡出土品(2/5～4/14)である。

また、「まちなか国宝展示」として「十日町きものまつり」(5/3)にあわせ、火焰型土器(指定番号5)の実物を展示した。同日には、近隣にある十日町市市民活動センターの1階ギャラリーにおいて、十日町市の2つの日本遺産ストーリーを紹介する展示を開催している。

④博物館実習

新潟大学より、学生1人(人文学部人文学科)を受け入れた。期間は、8月1日(木)から7日(水)である。実習では、所蔵資料の整理作業のほか、子ども博物館の補助などを行った。(石原 正敏)

⑤博学連携

市内の小学校で、出前授業を以下のとおり実施した。鏡島小学校：縄文土器作り(6/19)、笹山縄文館・広場展示解説・土器焼き(10/10)、東小学校：縄文土器作り(9/10)、笹山縄文館・広場展示解説・土器焼き(10/29)、下条小学校：縄文講座(11/15)・勾玉作り(11/22)。(阿部 敬)

⑥職場体験

十日町中学校2年生2名を受け入れた。期間は、7月11日(木)・12日(金)の二日間である。体験内容は、ガラス拭き作業、ミュージアムショップのPOP作成、受付窓口業務、収蔵庫掃除、SNS投稿用の写真撮影などを行った。(滋野 結希)

⑦縄文体験

令和3年度より、第2・4日曜日(4～11月)の午後に一般の来館者を対象とした体験メニューを行っている。今年度は、勾玉作りとプラ板・火焰型土器キーホルダー作りを実施した。体験料は300円(大人・小人とも)である。計98人が参加している。(笠井 洋祐)

⑧その他

TOPPAKUナイトミュージアム

令和6年度は夜間イベント「TOPPAKUナイトミュージアム」を2回開催し、開館時間を延長して、様々な行事のほか、博物館のライトアップ、ショップの限定商品販売を行った。

5月17日(金)は「国際博物館の日」(5月18日)記念事業として、ワークショップ「食べる縄文VS弥生」(ドングリ粉と米粉パンケーキの調理と食べ比べ)、撮影スペース「縄文フォトスポット」、特別解説「縄文と弥生は「どちらがう？」」を開催し、17時から21時までの間に91人の来館者があった。また、5月14日～19日まで展示「触ってわかる!? 縄文VS弥生」(縄文土器2点と弥生土器1点をさわって判別する)を実施した。

1月10日(金)は、17時から20時までの間に52人が来館した。ワークショップ「チンコロをつくろう」、展示解説「ひょっこり学芸員」のほか、正面にホンヤラドウを作成して鳥追い行事の体験を行い、その様子は各種メディアに掲載された。

クールジャパン EXPO in NIIGATA

10月26・27日(土・日)に、新潟市の朱鷺メッセで行われた「クールジャパン EXPO in NIIGATA ×新潟県文化祭」において、「十日町市博物館 TOPPAKU エリア」を出展した。新潟を象徴する文化を体験できる「新潟文化の箱庭」ブースには、当館のほか「佐渡の金山エリア」「糸魚川市・糸魚川ジオパークエリア」「燕市産業資料館エリア」の合計4つのエリアが開設された。TOPPAKU エリアでは、「さわれる国宝」火焰型土器・王冠型土器高精細レプリカ展示、火焰型土器キーホルダーづくりワークショップ、



ナイトミュージアム・鳥追い体験



クールジャパン EXPO in NIIGATA

JOMON フォトスポット、火焰型土器グッズ販売を行った。2日間の合計来場者数は 14,807 人(主催者発表)で、当館や国宝・火焰型土器を広くアピールする機会となった。

NHK ドラマ「コトコト～おいしい心と出会う旅」

NHK のドラマ「コトコト～おいしい心と出会う旅」〈新潟編〉が、令和 6 年 12 月 14 日 (BSP4K) と令和 7 年 1 月 14～16 日 (NHK 総合) に放送された。このドラマは、百貨店バイヤーの主人公が日本各地の“おいしい”を探して全国に旅へ出かけるというオリジナルストーリーである。十日町市を舞台にした〈新潟編〉は、雪、火焰型土器、チンコロ、郷土料理など地域の歴史文化が盛り込まれた物語になっている。撮影は令和 6 年 2～3 月に市内で行われ、博物館と笹山遺跡もロケ地となった。今後、ドラマ視聴者が来館することが期待される。(村山 歩)

TOPPAKU パーク

令和 7 年 2 月 15・16 日(土・日)に開催された「第 76 回十日町雪まつり」に合わせて、博物館内を含むその周辺がイベント会場「TOPPAKU パーク」となった。館内では、体験学習室で国宝である「新潟県笹山遺跡出土深鉢形土器」のうち、縄文時代の火焰型土器をモチーフにした縄文サブレにデコレーションをする体験や、出土した土器の破片を拓本する体験を実施した。講堂では日本遺産紹介コーナーや、昔の茶の間を再現した休憩ブースを設置した。そのほか両日に渡って学芸員による展示解説を開催し、15 日に 2,521 人、16 日に 1,205 人が入館した。館外では、重要有形民俗文化財「十日町の積雪期用具」関連の文化観光体験プログラム「TOPPAKU チャレンジ」を今回も実施した。正面駐車場ではキッチンカーや屋台等の出店、すべり台を設置して来場者の憩いの場を作り、TOPPAKU パーク全体で計 11,572 人の来場者があった。(春川 祐二)



TOPPAKU パーク (博物館前)

2. 資料収集・調査研究・保存対策事業

①資料の収集

博物館では、市民等から十日町市の歴史文化を伝える古文書、写真、民具、着物、美術品等の寄贈・寄託について相談を受け付けている。今年度は、22 件(資料番号 15416～15437、令和 7 年 3 月 15 現在)を受贈した。主な資料としては、古文書等歴史資料(十日町青年義勇消防資料写し、犬伏・山本庄屋家文書、吉田山谷・柳庄屋家文書、大白倉・高橋庄屋家文書、特急はくたか記念切符セット)、民具(十日町下町若衆旧蔵・二代大幟、蒔絵重箱、犬伏・獅子頭、カンジキ、ユキゲタ、テゴ)、美術品(正覚院旧蔵・津端道彦ほか掛軸)があげられる。

②資料の保存

博物館の着物収蔵庫や旧博物館収蔵庫に保管されている着物や古文書等については、収納タンスや中性紙保存箱に除湿剤や害虫忌避剤を入れて管理している。新規に受け入れた古文書群については、新潟県立文書館に委託して燻蒸を 2 回行った。(高橋 由美子)

③調査研究

「十日町市博物館研究紀要」第 4 号(オンラインジャーナル)を公開した。内容は以下のとおりである。論文等：菅沼亘「十日町市野首遺跡における縄文時代中・後期の黒曜石利用」、阿部敬「十日町市下原田 A 遺跡発見の陥し穴跡」、福島治樹「越後妻有地域における仏像調査報告―天福山真浄院―」、石原正敏「地域博物館を考える(2)―調査・研究と普及活動―」(阿部 敬)

3. 資料の貸出

①実物資料の貸出

貸出状況は以下のとおりである。国宝・笹山遺跡出土品の貸出は1件であった。（笠井 洋祐）

貸出先	資料名(点数)	目的(展覧会名・会期など)
新潟市文化財センター	森上遺跡火焰型土器1点、王冠型土器1点、計2点	令和6年度弥生の丘展示館企画展1「日本遺産「なんだ、コレは!」～信濃川流域の火焰型土器～」(4/27～9/8)
新潟県立歴史博物館	寺ノ下遺跡珧状耳飾1点、樽沢開田遺跡土製耳飾4点、土偶1点、南雲遺跡ヒスイ大珠など3点、寿久保遺跡ヒスイ大珠1点、野首遺跡大珠1点、長者ヶ原A遺跡ヒスイ勾玉1点、城之古遺跡勾玉製作工程資料13点、計25点	令和5年度中央4県 山の洲文化財交流事業「珠玉の国 新潟 ヒスイ、青玉、赤玉」(9/14～11/10)
長岡市馬高縄文館	森上遺跡火焰型土器2点、深鉢形土器2点、幅上遺跡深鉢形土器3点、計7点	秋季特別展「馬高式土器から栃倉式土器へ」(9/21～11/4)
豊田市博物館	国宝・笹山遺跡火焰型土器(No.5) 1点、野首遺跡火焰型土器1点、王冠型土器1点、笹山遺跡獣面付深鉢形土器1点、中新田A遺跡獣面把手2点、計6点	開館記念展「旅するジョウモンさんー5千年前の落とし物ー」(10/12～12/8)
三条市市民部生涯学習課	国宝・笹山遺跡火焰型土器(No.1) レプリカ1点	日本遺産フェスティバル in 極上の会津(10/26～10/27)
津南町教育委員会	千溝遺跡石器2点、紡錘車2点、小丸山遺跡土器4点、壬遺跡土器1点、中田D遺跡土器2点、向田遺跡石器1点、メガロドン歯の化石1点、計13点	レプリカ制作(12/23～R7.3/11)

実物資料の貸出一覧

②写真資料の貸出

写真資料の貸出件数は計132件(2月28日現在)、主な貸出状況は以下のとおりである。国宝 笹山遺跡出土火焰型土器などの考古資料が約7割を占めている。使用目的では教材・テストなど教育関連が最も多い。近年では、十日町市に係るテレビ放送や縄文に関する展示会なども増え、市史や国宝・火焰型土器の間合わせが増えている。（春川 奈嘉子）

貸出先	出版物	貸出資料	備考
光村教育図書株式会社	『あかねこ夏スキル6年』	国宝・笹山遺跡出土 深鉢形土器	書籍
株式会社 育鵬社	『縄文文化のフォルモロジー(形象学)』		書籍
株式会社 朝日新聞出版社	『日本の世界遺産』		書籍
株式会社 アフロ	『i ワーク歴史I』		書籍
株式会社 悠工房	『夏の練習帳6年』		書籍
Kyoten	国宝火焰型土器クリアファイル	国宝 笹山遺跡出土 深鉢形土器(No.1～17)	商品
NHK 新潟放送局	NHK「あさイチ」	雪室の写真(大関義男氏撮影)	放送
株式会社 エフエムとおかまち	フリーペーパー『ORADOKOマガジン』	十日町市博物館外観	雑誌
株式会社 みらい	『うおぬま観光ガイドマップ』		パンフ
株式会社 ミックウエア	『ほくほく線がつなぐ上杉家のなぜなぜ?』(クイズ冊子)		書籍

写真資料の貸出一覧(主要なもの)

4. その他の事業

①スノーカントリーミュージアム事業

本事業は、文化庁の文化観光拠点施設を中核とした地域における文化観光推進事業に伴うものである。令和2年に認定された文化観光推進法に基づく十日町市地域計画「とおかまち スノーカントリーミュージアムー雪の中のARTS & CULTUREー」の中で、博物館は文化観光拠点施設のひとつに位置付けられている。以下の事業を実施した。なお、今年度は事業の最終年である。

博物館所蔵文化遺産体験事業

本事業は、博物館が所蔵する国宝や重要有形民俗文化財への理解をより深められるよう、これらを体験する機会を博物館外において観光客に提供するものである。事業者に業務委託し、雪国の食文化体験プログラムの開発、積雪期用具を活用した体験プログラムの磨き上げ、縄文冬季メニューの企画を行った。このうち、積雪期用具を活用した体験プログラムの磨き上げでは、これまで開発した体験の満足度と収益化の向上を図るため、十日町雪まつりの TOPPAKU パークにおいて、ハコゾリやコシキなどを使った遊びの新メニューを開発した。(村山 歩)

博物館収蔵資料デジタルアーカイブ化事業

本事業は、博物館所蔵資料のデジタルアーカイブを公開することにより、文化観光資源として収蔵資料を有効活用し、展示解説と情報発信の充実を図るものである。今年度は、平成4年度に取得した写真撮影データを利用して、重要有形民俗文化財「越後縮の紡織用具及び関連資料」(一部)のデジタルアーカイブを作成した。アーカイブは、常設展示室のタッチパネルモニターおよび博物館ホームで公開している。(菅沼 亘)

博物館所蔵文化財に関する人材育成事業

本事業は博物館が所蔵する文化財に関連し、地域に伝承されてきた技術を継承する人材を育成するものである。昨年度に引き続き、博物館友の会に業務を委託して、雪国の暮らし講習会を開催した。講習会メニューは、アンギン編み(6月30日、7月7日、10月26日、11月2日、11月9日)、わら細工(1月26日、2月9日、2月23日)、参加定員はそれぞれ10人(参加費無料)である。参加人数は計51人であった。



アンギン編み

文化観光拠点施設連携企画展等開催事業

本事業は、文化観光拠点施設である博物館と森の学校キョロロ、十日町情報館が相互に連携して企画展等を行い、観光客の周遊を向上させ、入館者の増加を図るものである。夏季企画展では TOPPAKU ×キョロロ連携展示の「植物が彩る縄文人の食卓」(TOPPAKU 会場)と「文化財になったサメとゾウの化石」(キョロロ会場)を実施し、冬季企画展では TOPPAKU ×キョロロ連携展示の「十日町市の学芸員・研究員が紹介したくてしかたがない「スノウリッチ*とおかまち」」を実施した。

また、令和7年3月8日(土)から23日(日)に第16回山内写真館資料写真展「昭和の十日町～山内与喜男×駒形さとし 二人展Ⅱ～」を開催した。会場は十日町情報館ギャラリー、会期中の入場者は1,400人である。これに合わせて、キョロロ連携企画展「学芸員・研究員が紹介したくてしかたがない「スノウリッチ*とおかまち～雪の里に学ぶ子どもたち～」」を行い、情報館は雪国の暮らしや動植物、雪に関連する図書の特設コーナーを設置した。(笠井 洋祐)



冬季企画展 連携企画展

博物館魅力増進事業

本事業は、文化観光拠点施設として博物館の魅力を増進し、入館者数の増加を図ると共に、市内来訪者の回遊性を向上させることで地域の活性化を図るものである。今年度は、博物館ロビーに設置されているプロジェクションマッピング映像装置「十日町空中散歩」の既存コンテンツ7本に3本を追加した。新たに追加したコンテンツは、十日町市の2つの日本遺産ストーリーを紹介する「なんだ、コレは！信濃川流域の火焰型土器と雪国の文化」(シリアル型・平成28年認定)と「究極の雪国とおかまち一真説！豪雪地ものがたり」(地域型・令和2年認定)、上杉軍道(後の松之山街道)を紹介する「十日町と上杉謙信」である。(菅沼 亘)

②雪文化三館提携事業

当館と鈴木牧之記念館・トミオカホワイト美術館（ともに南魚沼市）の3館相互の入館者数増加を図り、提携事業を広く周知するため、博物館では8月29日（木）から9月26日（木）に「雪文化三館 特設展示@ TOPPAKU」と称して紹介コーナーを設置した。また、スタンプラリー及び2割引きの優待付きパンフレットを、観光施設などのほか高速道路SAへ配置をした。スタンプラリーについては、3館すべてのスタンプを集めた来館者に記念品を贈呈しており、南魚沼市トミオカホワイト美術館デザインのクリアファイルを600部増刷し、令和6年度の当館でのスタンプラリー達成者は16名であった。（滋野 結希）

5. 博物館友の会

博物館友の会は昭和54年(1979)に発足し、会員は令和7年2月末現在で約520名である。総会、庚申供養祭、文化財巡り、研究グループ懇談会、友の会だより『火焰』の発行、研究グループ発表会などのほか、博物館との共催事業を行った。8つの研究グループ（植物・古文書・いしづみ・歴史・民俗・方言・考古・きもの）が研究活動を行った。今年度の主な活動は以下のとおりである。

令和6年

4月13日(土) 令和6年度・総会

5月18日(土) 「火焰」149号発行

「TOPPAKU パークに参加して」(石原副会長)、令和6年度・事業計画、令和5年度・研究グループ発表会、令和6年度博物館事業のお知らせ ほか

7月17日(水) 研究グループ懇談会

7月20日(土) 庚申供養祭(参加者:20人)

9月1日(日)～2日(月) 友の会設立45周年記念 第95回文化財巡り「富山市八尾 おわら風の盆鑑賞の旅」参加費38,000円、参加者32人

9月16日(土) 「火焰」150号発行

巻頭言(宇都宮会長)、第95回文化財巡りに参加して、秋から冬の博物館事業について、駒形 颯^{さとし}先生を悼む、友の会 設立40周年から5年間の歩み、研究グループ設立40周年から5年間の歩みほか

令和7年

2月8日(土) 「火焰」151号発行

「十日町市博物館・私の楽しみ方」(友の会会員・池田知美)、8～12月の友の会と博物館の主な活動報告、冬季の友の会と博物館の活動紹介、「雪国のくらしの技」講習会 ほか

2月15日(土) 第76回 十日町雪まつり「TOPPAKU パーク」参加
甘酒ふるまい、記念撮影コーナーの設置 ほか

3月15日(土) 研究グループ発表会(会場:博物館 講堂)

植 物「キョロロの森の花」

いしづみ「津南地域のいしづみ」

方 言「松代の方言の紹介」

民 俗「雪国の暮らしと信仰—十日町市の年中行事から—」

古 文 書「慶応3年・松代村五人組御仕置帳を読む」

き も の「十日町織物メーカーの資料サンプル探求2」

考 古「地域資源の保護と活用を考える」



雪まつり「TOPPAKU パーク」参加

(石原 正敏)

Ⅲ 調査・報告

報告

十日町市中条北原地区における庚申塔建立供養の記録

菅 沼 亘

1. はじめに

十日町市中条北原地区なかじょうきたはらには、寛政12年(1800)の庚申供養祭について記された古文書「庚申ノ供養塔之事」(個人蔵)が遺り、旧十日町市博物館の常設展示室に展示されていた。現在は、当館収蔵庫に保管されている(写真2)。本資料は、地域において行われた庚申供養祭の様子や、庚申塔造立の経過を知る上で貴重であると考えられ、今回紹介するものである。

庚申講は、干支でいう庚申かのえさるの日の夜に近隣の信仰仲間(講中)が集まり、徹夜して、神仏を祀って供物を供え、礼拝した後に飲食・歓談する行事である。徹夜する訳は、三戸さんしという虫が人の体内にいて、庚申の夜に人が眠ると体内から抜け出し、天帝にその人が犯した罪過を告げると、天帝は人を早死にさせてしまうため、長生きしたければ、眠らずに起きていよという中国の道教の教えによると言われている。平安時代初期に始まった庚申信仰は、健康長寿を願って江戸時代に流行し、供養のために全国各地で庚申塔が造立された。現在、十日町市内では800基を越える庚申塔(文字碑・青面金剛像)が確認されている。

本資料には、寛政12年(1800)4月22日に執り行われた庚申供養祭について、その詳細が書かれている。概要は以下のとおりである(写真3)。

- ①村中で相談し、鎮守八幡宮の東側の通り端に庚申塔を立てることが決まった。供養は中条村の長泉寺様にお願ひし、お布施は銀二朱であった。
- ②本尊掛軸は吉右衛門が参宮した際に、京都で新しいものを買ひ求め、古いものは塔の下に埋めた。
- ③村中の老若男女が集まり、酒2斗3升、甘酒2斗2升が昼夜振る舞われた。

酒の肴は個々の持ち寄りもあった。米1俵を費やし、代金は1分2朱であった。

庚申塔は、60年毎の庚申年に造立されることが多く、昭和55年(1980)に立てられた塔が市内各地に見られ、盛大な供養祭が行われている。現在、北原地区の八幡神社境内には、安政7年(1860)と昭和55年の紀年銘が刻まれた庚申塔が、二十三夜塔、金毘羅大権現とともに並ぶ(写真1)。昭和55年に境内で行われた供養祭では、塔の下からコルクと杯で蓋がされた茶色のガラスの2合瓶が見つかった。その代わりに、酒、ウイスキー、住民名簿、子どもの手形・記念写真、集落の航空写真、当日の新聞を木炭と一緒に蓋をして漬物用の甕に入れ、埋めたという。その後、樽酒のかがみ割り、甘酒の振る舞い、カラオケ大会など盛大な祝宴が行われたと伝わる。



写真1 中条北原地内の庚申塔

参考文献(主なもの)

庚申談話会編 1994『日本石仏事典(第2版)』雄山閣

桜井徳太郎編 1980『民間信仰辞典』東京堂出版

十日町市博物館友の会編 1980『妻有の庚申さま』1980(昭和55) 庚申年 庚申供養祭取材記

十日町市史編さん委員会編 1993『十日町市史』資料編5・近世2

十日町市史編さん委員会編 1996『十日町市史』通史編3・近世2

十日町市博物館友の会編 1997『妻有のいしづみ』

中条地区公民館編 1980『中条のお庚申さま』中条公民館歴史講座記録集

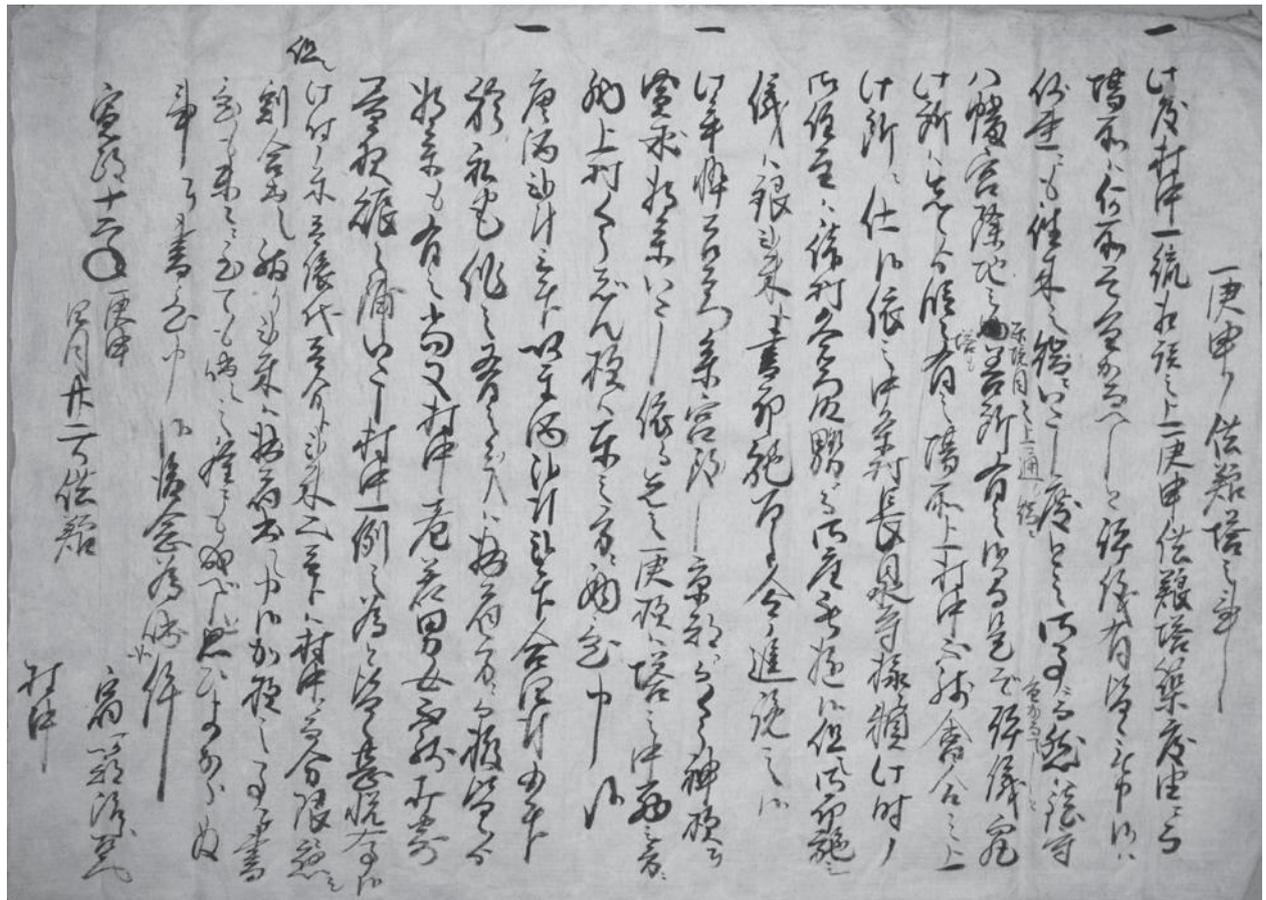


写真2 「庚申ノ供養塔之事」(個人蔵)

庚申ノ供養塔之事

一 此度村中一統相談之上、庚申供養塔築度由ニ而、場所ハ何所そ全かるへしと評儀有、皆々被申候ハ何れニも往来之端ニいたし度と之御事ニ而、然ハ鎮守八幡宮除地之東境目之上通り端ニ善所有之候間、是ぞ全かるべしと評儀究、此所ハ先々々段々塔も有之、場所上村中不残会合之上、此所ニ仕候、依之中条村長泉寺様ニ頼、此時ノ御住主ハ峠村久右衛門殿甥ニ而御座被遊候、但し御布施之儀ハ銀式朱ト書、布施百文令進覽之候

一 此年悴吉右衛門參宮致し、京都ニ而くう神様ヲ買求持参いたし候、依而先之庚様ハ塔之中西之方ニ納上、くうじん様ハ東之方ニ納置申候、

一 唐酒式斗三升、あま酒式斗式升、合四斗五升於私宅作之、肴之義ハ拙者方ニ而拵、皆々々持参も有之、尚又村中老若男女不残打寄、昼夜賑々舖いたし、村中一例之為と皆々甚悦入事候、但し此時ノ米老儀代老分ト式朱也、老分ハ村中ニ而分限ニ応シ割合出し、残り式朱ハ拙者出し申候、ケ様之事ヲ書置も末々ニ至ても咄し之種ニも成べしと思ひ、よからぬ事ヲ書置申候、後念為咄如件

寛政十二年庚申四月廿二日供養

村中 宿 阿部治郎左衛門

写真3 「庚申ノ供養塔之事」解説文 (十日町市史編さん委員会編 1993 より)

附編 博物館開館・友の会設立 45 年の歩み（主要なもの）

- 昭和 51 年度（1976） 文化財収蔵庫竣工
- 昭和 53 年度（1978） 博物館竣工
- 昭和 54 年度（1979） 博物館開館（4/27）・友の会設立（4/14）
- 昭和 55 年度（1980） 庚申塔・道祖神建立（山内軍平氏寄進）
庚申供養祭・友の会研究グループ発表会が始まる（現在まで継続）
- 昭和 56 年度（1981） 友の会編『写真集 明治・大正・昭和の十日町』出版
- 昭和 59 年度（1984） 開館・友の会設立 5 周年記念シンポジウム「妻有の文化を考える」
- 昭和 60 年度（1985） 十日町市史編さん室設置（平成 8 年まで）
「越後縮の紡織用具及び関連資料 2,098 点」の重要有形民俗文化財指定（3/31）
- 昭和 61 年度（1986） 郷土植物園が開園
- 昭和 63 年度（1988） 遺跡広場が開場
- 平成 元年度（1989） 開館・友の会設立 10 周年記念特別展「池田寿夫展」
- 平成 3 年度（1991） 「十日町の積雪期用具 3,868 点」の重要有形民俗文化財指定（4/19）
旧館・考古展示室オープン（増築）
- 平成 4 年度（1992） 「笹山遺跡出土品」の重要文化財指定（6/22）
重文・火焰型土器が「古代の日本展」（ワシントン D.C.）へ出品
「雪文化三館」提携調印
- 平成 6 年度（1994） 旧館・常設展示室リニューアルオープン
開館・友の会設立 15 周年記念特別展「棟方志功展」
「越後アンギンシンポジウム」
- 平成 8 年度（1996） 「火焰フォーラムと縄文の夕べ」
- 平成 10 年度（1998） 重文・火焰型土器が「縄文展」（パリ）へ出品
旧館・考古展示室（一部）とロビーの改装
- 平成 11 年度（1999） 開館・友の会設立 20 周年
笹山遺跡出土品の国宝指定（6/7）
梅原猛氏が名誉館長に就任（平成 22 年まで）
友の会が新潟県教育委員会表彰受賞（教育功労者）
- 平成 13 年度（2001） 国宝・火焰型土器 No.1 の愛称「縄文雪炎」とマスコットキャラクター「ほのおまる」
が決定
国宝・火焰型土器が「古代日本の聖なる美術展」（大英博物館）へ出品
- 平成 16 年度（2004） 開館・友の会設立 25 周年記念式典
中越大震災に被災（国宝の一部破損）
- 平成 17 年度（2005） 周辺町村と合併し、新十日町市誕生
旧館・ロビーの一部改装
- 平成 21 年度（2009） 開館・友の会設立 30 周年・国宝指定 10 周年記念
特別展「縄文人の道具箱 野首遺跡展」
開館・友の会設立 30 周年記念式典
- 平成 22 年度（2010） 国宝・火焰型土器 No.6 が「日本の美 5000 年展」（イスタンブール）へ出品
「真夏の火焰まつり」（青年会議所共催）

- 平成 26 年度 (2014) 開館・友の会設立 35 周年・国宝指定 15 周年記念講演会
「イタリアの考古学・日本の考古学」(文化庁長官・青柳正規氏 当時)
「新十日町市博物館基本構想」策定
遺跡広場・復元住居茅屋根の葺き替え
- 平成 27 年度 (2015) 「新十日町市博物館基本計画」策定
- 平成 28 年度 (2016) 新博物館の基本・実施設計に着手
「なんだ、コレは!信濃川流域の火焰型土器と雪国の文化」が日本遺産認定
国宝・火焰型土器 No.1・王冠型土器 No.15 の三次元計測(東京国立博物館)
- 平成 29 年度 (2017) 新博物館の建設工事に着手
国宝・火焰型土器 No.1 を特別展「国宝展」(京都国立博物館)へ出品
第 1 回・縄文国宝自治体首長連携懇談会(京都市)
国宝・火焰型土器 No.1 の高精細レプリカ製作
- 平成 30 年度 (2018) 国宝・火焰型土器 No.6 を特別展「縄文」(東京国立博物館)へ出品
第 2 回・縄文国宝自治体首長連携懇談会(東京国立博物館)
国宝・火焰型土器 No.5 他をジャポニスム 2018「深みへ」展(パリ)へ出品
国宝・火焰型土器 No.1 をジャポニスム 2018「縄文」展(パリ)へ出品
国宝・王冠型土器 No.15 の高精細レプリカ製作
- 平成 31・令和元年度 (2019) 国宝指定 20 周年記念講演会
「縄文の美を捉える」(品川欣也氏・東京国立博物館)
国宝指定 20 周年・博物館開館・友の会設立 40 周年記念講演会
「最新の研究成果からわかった縄文時代」(山田康弘氏)
国宝指定 20 周年記念シンポジウム「縄文の国宝」
新博物館本体建物の竣工、展示工事に着手
- 令和 2 年度 (2020) 新博物館オープン(6/1)
「究極の雪国とおかまち—真説!豪雪地ものがたり—」が日本遺産認定
新館オープン記念秋季特別展「縄文の遺産—雪降る縄文と星降る縄文の競演—」
国宝「縄文のビーナス」(茅野市所蔵)ほか展示
- 令和 3 年度 (2021) 新館オープン 1 周年記念夏季特別展「形をうつす—文化財資料の新たな活用—」
重要文化財「遮光器土偶」(東京国立博物館所蔵)ほか展示
新館オープン 1 周年記念秋季特別展「岡本太郎が見て、撮った縄文」
- 令和 4 年度 (2022) 新博物館の愛称「TOPPAKU」に決定
- 令和 5 年度 (2023) 野首遺跡火焰型土器が海外展「日本の美の原点」(ギリシャ)へ出品
- 令和 6 年度 (2024) 開館・友の会設立 45 周年・国宝指定 25 周年記念
秋季特別展「JAPAN のルーツ—雪ふる縄文と世界遺産—」
十日町市文化財保存活用地域計画が認定

入館者数の推移（昭和54～令和6年度）

年度	大人		小人		合計 ()内団体数	備考
	個人	団体(数)	個人	団体(数)		
昭和54(1979)						博物館開館・友の会設立 入館料無料
昭和55(1980)						入館料無料
昭和56(1981)	7,401	8,215 (235)	3,387	1,997 (43)	21,000 (278)	入館料 100円
昭和57(1982)	10,309	6,108 (226)	3,875	2,841 (56)	23,133 (282)	
昭和58(1983)	10,291	5,651 (205)	2,854	2,478 (52)	21,274 (257)	
昭和59(1984)	11,396	7,574 (205)	2,383	2,273 (34)	23,626 (239)	開館・友の会設立5周年
昭和60(1985)	7,226	5,559 (179)	3,120	1,370 (29)	17,275 (208)	越後縮資料重文指定
昭和61(1986)	8,787	5,700 (205)	6,755	3,551 (57)	24,793 (262)	郷土植物園開園
昭和62(1987)	7,434	6,637 (219)	3,904	2,030 (40)	20,005 (259)	
昭和63(1988)	10,274	4,718 (152)	3,207	1,869 (35)	20,068 (187)	遺跡ひろば開場 博物館増築工事
平成元(1989)	11,442	3,850 (123)	3,538	1,972 (41)	20,802 (164)	開館・友の会設立10周年
平成2(1990)	10,166	3,075 (126)	2,191	1,116 (22)	16,548 (148)	
平成3(1991)	9,899	5,837 (189)	3,297	1,819 (38)	20,852 (227)	積雪期用具重文指定 新館考古展示室オープン
平成4(1992)	10,460	4,908 (126)	3,099	2,138 (46)	20,605 (172)	笹山遺跡出土品重文指定 入館料 200円
平成5(1993)	10,074	4,958 (134)	3,268	1,943 (45)	20,243 (179)	
平成6(1994)	9,678	2,889 (94)	2,956	1,623 (41)	17,146 (135)	開館・友の会設立15周年 旧館・常設展示室リニューアルオープン
平成7(1995)	11,979	3,819 (115)	2,365	1,879 (53)	20,042 (168)	
平成8(1996)	11,255	4,592 (124)	2,011	1,598 (40)	19,456 (164)	
平成9(1997)	12,890	4,467 (130)	1,641	2,258 (62)	21,256 (192)	
平成10(1998)	13,718	2,985 (85)	1,803	1,350 (33)	19,856 (118)	
平成11(1999)	21,337	5,540 (159)	2,811	3,394 (65)	33,082 (224)	開館・友の会設立20周年 笹山遺跡出土品国宝指定
平成12(2000)	15,252	5,150 (134)	1,886	2,072 (49)	24,360 (183)	入館料 500円 第1回大地の芸術祭
平成13(2001)	12,162	3,365 (91)	1,561	1,903 (42)	18,991 (133)	
平成14(2002)	11,368	2,230 (60)	1,720	1,429 (32)	16,747 (92)	
平成15(2003)	11,313	2,981 (81)	1,624	1,495 (27)	17,413 (108)	第2回大地の芸術祭
平成16(2004)	8,568	2,715 (77)	1,470	1,075 (31)	13,828 (108)	開館・友の会設立25周年 中越地震(10/23)
平成17(2005)	10,829	1,458 (46)	1,398	2,431 (54)	16,116 (100)	入館料 200円(団体 150円) 12月から豪雪
平成18(2006)	14,322	2,771 (76)	1,776	2,627 (69)	21,496 (145)	入館料 300円(団体 250円) 第3回大地の芸術祭
平成19(2007)	11,663	2,384 (78)	1,356	3,294 (83)	18,697 (161)	中越沖地震(7/16)
平成20(2008)	10,617	2,261 (67)	1,519	2,668 (55)	17,065 (122)	
平成21(2009)	12,766	1,969 (47)	1,840	2,141 (49)	18,716 (96)	開館・友の会設立30周年 第4回大地の芸術祭
平成22(2010)	10,778	1,431 (43)	1,964	1,661 (41)	15,834 (84)	東日本大震災(3/11) 長野県北部地震(3/12)
平成23(2011)	9,511	1,169 (33)	1,542	1,508 (45)	13,730 (78)	
平成24(2012)	15,493	1,138 (38)	2,001	1,630 (39)	20,262 (77)	第5回大地の芸術祭
平成25(2013)	11,241	806 (26)	1,250	1,461 (34)	14,758 (60)	
平成26(2014)	12,518	768 (30)	1,063	1,510 (38)	15,859 (68)	開館・友の会設立35周年 友の会会員入館料無料化
平成27(2015)	15,552	1,114 (36)	1,636	1,344 (27)	19,646 (63)	第6回大地の芸術祭
平成28(2016)	12,636	1,232 (37)	1,164	1,405 (32)	16,437 (69)	
平成29(2017)	12,033	962 (32)	1,251	1,126 (26)	15,372 (58)	
平成30(2018)	13,198	780 (27)	1,374	1,045 (32)	16,397 (59)	第7回大地の芸術祭
平成31 令和元	9,537	1,042 (32)	1,195	566 (8)	12,340 (40)	開館・友の会設立40周年 新館展示工事のため完全休館(12/2～)
令和2(2020)	20,017	1,135 (33)	2,559	2,225 (45)	25,936 (78)	新館オープン(6/1) 入館料 500円(団体 400円)
令和3(2021)	18,131	1,609 (28)	1,698	2,444 (50)	23,882 (78)	
令和4(2022)	22,588	1,465 (45)	2,139	1,543 (44)	27,735 (89)	第8回大地の芸術祭
令和5(2023)	22,513	1,204 (44)	2,142	1,062 (27)	26,921 (71)	
令和6(2024)	24,843	1,197 (37)	2,012	1,477 (41)	29,529 (78)	開館・友の会設立45周年 入館料 600円(団体 500円) 第9回大地の芸術祭
総計	555,465	141,418(4,159)	99,605	82,641(1,686)	879,129(5,767)	

(大人は高校生以上・小人は中学生以下、団体は20人以上・小人の団体は学校単位)

<利用案内>

- 開館時間 9:00～17:00（入館は16:30まで）
- 入館料 一般600円（団体20人以上500円）
中学生以下無料
*特別展は別途料金が必要
- 休館日 毎週月曜日（国民の祝日の場合は翌平日）
年末年始（12月28日～1月3日）
*冬季間は変更の場合あり
- 所在地 〒948-0072
新潟県十日町市西本町1-448-9
TEL:025-757-5531 FAX:025-757-6998
e-mail:museum.10@city.tokamachi.lg.jp
https://www.tokamachi-museum.jp/
- 交通 ほくほく線・JR飯山線・十日町駅から徒歩10分
関越自動車道・六日町ICから車30分
関越自動車道・越後川口ICから車30分
北陸自動車道・上越ICから車80分
上信越自動車道・豊田飯山ICから車80分
- 駐車場 第1：普通車16台・障がい者用2台、第2：普通車26台・大型バス3台
- サービス 音声ガイド貸出（日本語・英語・中国語・タイ語・フランス語・イタリア語・ポルトガル語：有料）、
ミュージアムショップ（各種キャッシュレス払い対応）、自動販売機
授乳室、多目的トイレ、ベビーカー・車椅子貸出（無料）、コインロッカー（無料）
- その他 館内撮影可能（三脚・フラッシュ使用禁止）
館敷地内全面禁煙、展示室内飲食禁止（アメ・ガム含む）



<令和6年度博物館職員>

館長	菅沼 亘（学芸員）	会計年度任用職員	田村 薫（調査研究員）
副館長	村山 歩（業務係長）	〃	春川 奈嘉子
副参事	笠井 洋祐（学芸員）	〃	山田 まり
〃	石原 正敏（学芸員・再任用）	〃	池田 好恵
〃	春川 祐二	〃	村山 亜樹
主査	高橋 由美子（学芸員・再任用）	〃	田村 実義
〃	阿部 敬（学芸員）		
主任	本柳 美紀（学芸員）		
〃	島本 翠		
主事	滋野 結希		

十日町市博物館 年報 第11号

編集・発行：十日町市博物館

〒948-0072 新潟県十日町市西本町1-448-9 TEL:025-757-5531 / FAX:025-757-6998
URL: https://www.tokamachi-museum.jp / e-mail: museum.10@city.tokamachi.lg.jp
発行日：令和7年(2025)3月31日 印刷：株式会社 みらい

